

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

令和4年度を期限とする10名の入学定員について、令和5年度までの期限を付した再度の入学定員増を行い、令和5年度の入学定員を再度の定員増を行わなかった場合の90名から100名に変更する。

これにあわせて、収容定員についても令和5年度までの期限を付した臨時の入学定員増を踏まえ、再度の定員増を行わなかった場合の590名から600名に変更する。

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

地域医療を担う医師の不足という深刻な状況から、平成21年度に「緊急医師確保対策」に基づき平成29年度までの期限を付した5名の臨時定員増を、また「経済財政改革の基本方針2008」に基づき5名の恒久定員増をそれぞれ実施した。

さらに、平成22年度に「経済財政改革の基本方針2009」に基づき平成31年度までの期限を付した5名の臨時定員増を実施した。また、平成29年度には時限を迎えた「緊急医師確保対策」に基づく臨時定員5名を平成31年度まで2年間延長し、更に令和4年度まで3年間延長した。

今回の令和5年度を期限とする10名の入学定員については、依然として医師不足が続いており、大分県からも医師偏在の非常事態に直面しているへき地医療に対する医師の育成について強い要望があるため、今後も継続して取り組む。

なお、再度の定員増を行う10名については、これまでどおり総合型選抜の地域枠入学者とする。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

教育課程の変更は行わないが、地域医療（へき地を含む）に携わる医療人の育成をめざし、以下の地域医療教育をカリキュラムに組み込み充実させている。

- 1) 1年次の入学直後の「早期体験実習」（3日間）では、地域の障害者支援施設で介護実習を行い、実際の医療現場を体験することにより、医学部学生としての意識付けを確たるものとしている
- 2) 3年次の「地域医療実習・講義」（2週間）では、地域医療の現状と課題に関する講義に加えて、県内55箇所の診療所（へき地診療所を含む）での体験実習を行うことにより、プライマリ・ケアの重要性を学んでいる
- 3) 4年次の「研究室配属」では、医学部の講座・研究室あるいは学外（国内・海外）研究施設で11週間の研究を行っている。この際、地域枠を含めて地域医療に興味のある学生は総合診療・総合内科学講座、総合外科・地域連携学講座に配属され、地域を

フィールドとした臨床研究を行い、リサーチマインドを涵養している

- 4) 5年次の「地域医療実習」(2週間)では、大分県内16箇所のへき地医療拠点病院で泊まり込みの実習を行い、地域包括ケアの現場を体験しつつ、高齢者医療・多職種連携・在宅医療・医療コミュニケーションなど地域医療に必須の知識・技能・態度を学んでいる
- 5) 5年次の「総合診療科実習」(2週間)では、地域の家庭医や病院総合診療医の協力を得て、外来診療・在宅医療・救急を含めた体験型臨床実習を行い、総合的臨床能力の重要性を学んでいる
- 6) 6年次の「選択型臨床実習」(4週間)で総合診療・総合内科学講座、総合外科・地域連携学講座を選択した学生は、離島・中山間部の医療機関を含めた地域医療の現場で参加型臨床実習を行い、地域医療の必要性とそのやりがいを体得している

なお、今回の収容定員変更により増員の対象となる総合型選抜の地域枠で入学した学生は、上記のカリキュラムに加え、夏季の地域医療研修会、秋季の地域医療セミナー、および冬季の“へき地医療中核病院”の医師による講演会・交流会に参加する。本学地域医療学センターの教員によるキャリア支援とともに、地域枠の卒業生と在校生による“大分の地域医療の明日を拓く会”による屋根瓦式の支援体制が構築されており、早期から段階的に地域医療を体験し、知識・技術・態度の習得とともに使命感や、やりがいを実感することができている。令和5年度以降もこのカリキュラムを継続し、優秀な卒業生を輩出して地域医療の発展に寄与していく。

令和5年度
医学部入学定員増員計画

分大総企第2-1号
令和4年8月23日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人大分大学長
北野正剛

「地域の医師確保等の観点からの令和5年度医学部入学定員の増加について（令和4年8月10日付け文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	医学・病院事務部学務課長 金丸浩三
	TEL	097-586-5502
	FAX	097-586-5519
	E-mail	gakumukt@oita-u.ac.jp

大学名	国公立
大分大学	国立

1. 現在(令和4年度)の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	10	0	650



(収容定員計算用)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
(ア)入学定員	100	100	100	100	100	100	600
(イ)2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	110	110	110	110	100	650

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和5年度の入学定員(編入学定員)及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
90	10	0	590



(収容定員計算用)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計
(ア)入学定員	90	90	90	90	90	90	540
(イ)2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	100	100	100	100	100	90	590
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)	0	0	0	0	0	0	

3. 令和5年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
100	10	0	600



(収容定員計算用)

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計
(ア)入学定員	100	90	90	90	90	90	550
(イ)2年次編入学定員	10	10	10	10	10	0	50
(ウ)3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	100	100	100	100	90	600
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)	0	0	0	0	0	0	

増員希望人数 10



(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増(地域枠)	10
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増(研究医枠)	0
計	10

1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数

(1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	大分県	10
大学所在地以外の都道府県		
計		10

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R3地域枠定員 (※1)	R3貸与者数 (※2)	R4地域枠定員 (※1)	R4貸与者数 (※2)	R3とR4の貸与者数のうち多い方の数
大分県	10	13	10	13	13
					0
					0
					0
					0
計	10	13	10	13	13

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

(3) 令和5年度地域の医師確保のための入学定員増について

1. 大学が講ずる措置

1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和3年度に実施した地域枠学生(令和4年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
総合型選抜	(ii)総合型選抜	別枠(区別型)	13	10	<p>選抜方法等 (1)選抜方法 【第1次選考】 一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考(一般枠、地域枠ともに募集人員の約2.5倍)を行い、第2次選考の対象者を決定します。</p> <p>【第2次選考】 一般枠、地域枠ともに、面接(個人面接及びグループディスカッション)を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書、課題小論文(地域枠のみ)及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。 なお、同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。</p>	<p>出願資格※一般枠と地域枠との併願は認められません。 【一般枠】 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和2年(2020年)3月以降に卒業した者及び令和4年(2022年)3月卒業見込みの者(外国の高等学校に留学のため、令和3年(2021年)4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。)で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。 1. 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 ※(A)に該当する者については、調査書に(A)と表示してください。 2. 臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者 3. 合格した場合は、入学することを確約できる者</p> <p>【地域枠】 上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。 ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者 ※今年度のへき地医療拠点病院体験活動(地域枠のみ)は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課します。</p>	H21以前	
合計			13	10				

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和4年度に実施する地域枠学生(令和5年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。

また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	開始年度	備考
				うち臨時定員分				
総合型選抜	(ii)総合型選抜	別枠(区別型)	13	10	<p>選抜方法等 (1)選抜方法 【第1次選考】 一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考(一般枠、地域枠ともに募集人員の約2.5倍)を行い、第2次選考の対象者を決定します。</p> <p>【第2次選考】 一般枠、地域枠ともに、面接(個人面接及びグループディスカッション)を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書、課題小論文(地域枠のみ)及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。</p> <p>同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。</p>	<p>出願資格※一般枠と地域枠との併願は認められません。</p> <p>【一般枠】 高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和3年(2021年)3月以降に卒業した者及び令和5年(2023年)3月卒業見込みの者(外国の高等学校に留学のため、令和4年(2022年)4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。)で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評がA段階に属する者 ※(A)に該当する者については、調査書に(A)と表示してください。 2. 臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者 3. 合格した場合は、入学することを確約できる者 <p>【地域枠】 上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者 ※今年度のへき地医療拠点病院体験活動(地域枠のみ)は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課します。 	H21以前	
合計			13	10				

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要(令和5年度)について、5~6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次の「早期体験実習」では県内医療機関にて介護福祉に関する体験実習を行い、3年次の「診療所実習」及び5年次の「滞在型地域医療実習」では地域枠学生が卒後に勤務するへき地医療拠点病院・診療所を実習施設に組み入れている。また、4年次の「研究室配属(2ヶ月間)」では地域医療の諸問題をテーマとした研究を行っている。さらに、夏休みには自治医科大学と合同で3日間の地域病院・診療所での実習を行っており、令和3年度からは厚労省事業での「総合診療インテンシブコース」での総合診療教育を開始した。

(参考: 記入例)
1~2年次には、「〇〇」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、~~を学んでいる。3~4年次には、××実習を行い、~~を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和4年度からは、■■を新たに開始するなど、~~を図ることとしている。

②(過去に地域枠を設定したことがある場合)これまでの取組・実績を、3~5行程度で簡潔にご記入ください。

平成19年度から入学定員内に地域枠(学士:3名)を導入し、平成21年からは地域枠による増員(平成21年5名:平成22年以降10名)を開始し、現在、計13名を地域枠としている。令和4年度までに地域枠学生183名を確保し、これまで99名が大分県内の医療機関で医師として勤務、現在36名がへき地医療拠点病院に赴任し、地域医療に貢献している。

(参考: 記入例)
平成〇年度から地域枠による増員を開始し、□□、■■などの取組を行ってきた。令和4年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在~~として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容(正規科目)について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の 別	単位 数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年次生	早期体験実習	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3年次生	総合診療科・総合外科	全員	必修	必修	講義	2	H24
3年次生	総合診療科・総合外科の地域医療実習	全員	必修	必修	実習		H24
4年次生	研究室配属	全員	選択必修	選択必修	実習	3	H21以前
5年次生	臨床実習(Stage1)の地域医療実習	全員	必修	必修	実習	4	H23
4, 5年次生	臨床実習(Stage1)の総合診療・総合内科	全員	必修	必修	実習		H28
5, 6年次生	臨床実習(Stage2)の総合内科・総合診療科	全員	選択必修	選択必修	実習	4	H24
5, 6年次生	臨床実習(Stage2)の総合外科・地域連携学	全員	選択必修	選択必修	実習		H30

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。(地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。)
※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例:○週間)	プログラムの概要(1～2行程度)	開始年度
1年次生～5年次生	大分県地域医療研修会	地域枠学生	大分県医療政策課、大分県地域医療支援センターとの連携	3日間	夏休み期間に大分県内のへき地医療拠点病院かへき地診療所で2泊3日の研修を自治医科大学学生と一緒にを行う	H21以前
1年次生～6年次生	大分の地域医療の明日を拓く会	地域枠学生	大分県医療政策課、大分県地域医療支援センターとの連携	1日間	へき地医療拠点病院長と地域枠卒業医師による講演、および地域枠卒業医師を囲む懇談会により情報共有を行う	H25
1年次生～6年次生	地域医療セミナー in 大分	全員	大分県地域医療支援センターとの連携	2日間	県内のへき地医療拠点病院とその地域で医療・介護実習、住民との触れ合いをとおして地域医療の魅力を伝えている	H24

(※1)対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。(令和4年度以前から継続する取組を含む)(1～2行程度)

取組の名称	取組の概要(1～2行程度)	開始年度
大分県臨床研修医合同研修会	県医師会、県地域医療支援センターと大分大学地域医療学センター主催で、講演会と情報交換会を行い、地域医療の啓発を行っている	H27

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(平成元年法律第64号)第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。
なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額 (例:200,000)		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	(診療科の限定がある場合)その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無(※1)			
大分県	13	新入生	50,000	7,096,800	大学卒業後、医師免許を受けた後、貸与を受けた2分の3の期間(通常9年間)を次の①～③の区分毎に各指定医療機関で勤務します。 ① 初期臨床研修(卒業後2年間):大分大学医学部附属病院 ② 地域勤務(卒業後3～9年目のうち4年間、ただし3年目は必ず地域勤務):県の指定するへき地医療拠点病院等大分大学医学部附属病院等 ③ 後期研修(卒業後4～9年目のうち3年間):大分大学医学部附属病院等 ※ 指定医療機関…大分大学医学部附属病院、へき地医療拠点病院、へき地診療所のうち、県が指定するもの	①大学における選抜前に都道府県において面接等を実施	×	×		【総貸与額内訳】 ・入学料 282,000円 ・授業料 3,214,800円 (年額535,800円×6年間) ・修学支援金 3,600,000円 (月額50,000円×6年間) 合計 7,096,800円

(※1)○の場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。(例:在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援)(1～2行程度)

取組の名称	取組の概要(1～2行程度)	開始年度
地域枠学生との面談	卒業後の心配を解くために、地域医療学センタースタッフがメンター的に面接を行い、義務機関の勤務、キャリア形成支援などを説明(県と共有)	H21以前
臨床研修医、地域枠医師との面談	キャリア形成と地域勤務との両立を図るための相談や指導を県医療政策課と合同で行っている	H26

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

3. その他

1～2に記入したものを以外で、その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。(1～3行程度)

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

- ① 高大連携「地域医療 魅力発見セミナー(平成23年より)」:県内の高校2年生を対象に講演・グループディスカッション・体験学習を行っている。
②「内科医療人材育成会議」:自治体と連携して、地域枠医師を指導医とともに地域病院に派遣する仕組み(平成30年より)。

令和4年度（2022年度）
総合型選抜 学生募集要項（抜粋）

1. 募集人員

医学部医学科 25名（一般枠22名，地域枠3名）

地域枠定員については，文部科学省等に地域枠に係る臨時定員増の申請を行う予定です。承認された場合及び承認されなかった場合の募集人員は，それぞれ下記のとおりとします。

なお，地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合でも，大分県における医師確保の観点から，一般選抜（前期日程）一般枠募集人員を55名から45名に，総合型選抜地域枠募集人員を3名から13名に変更することとします。

審議結果（令和3年（2021年）10月下旬～11月上旬を予定）が分かり次第，本学ホームページで発表します。

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認された場合の募集人員】

【現在の募集人員】

総合型選抜	一般枠	22名	計
	地域枠	3名	25名
一般選抜 （前期日程）	一般枠	55名	計
	地元出身者枠	10名	65名



総合型選抜	一般枠	22名	計
	地域枠	13名	35名
一般選抜 （前期日程）	一般枠	55名	計
	地元出身者枠	10名	65名

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合の募集人員】



総合型選抜	一般枠	22名	計
	地域枠	13名	35名
一般選抜 （前期日程）	一般枠	45名	計
	地元出身者枠	10名	55名

2. 出願資格 ※一般枠と地域枠との併願は認められません。

【一般枠】

高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和2年（2020年）3月以降に卒業した者及び令和4年（2022年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和3年（2021年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。

1. 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が**A段階**に属する者
※④に該当する者については、調査書に④と表示してください。
2. 臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者
3. 合格した場合は、入学することを確約できる者

【地域枠】

上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。

- ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者

※今年度のへき地医療拠点病院体験活動（地域枠のみ）は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課します。詳細は6ページを確認してください。

9. 選抜方法等

(1) 選抜方法

【第1次選考】

一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考（一般枠、地域枠ともに募集人員の約2.5倍）を行い、第2次選考の対象者を決定します。

※第1次選考の結果については、通知書を令和4年（2022年）**2月8日（火）に受験者全員へ電子郵便で出願時に登録した現住所へ通知**します。翌日の正午までに未着の場合は、最寄りの集配郵便局にお問い合わせください。

なお、第1次選考合格者は、第2次選考試験当日に、必ず「**大分大学受験票**」と「**大学入学共通テスト受験票**」の**2種類**を忘れずに持参してください。

【第2次選考】

一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書、課題小論文（地域枠のみ）及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。

なお、同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。

(3) 第2次選考試験期日

試験期日	試験時間	試験科目
令和4年（2022年）2月13日（日）	午前の部：9時00分～	面接（個人面接・グループディスカッション）
	午後の部：13時00分～	

(6) 地域枠について

地域枠志願者は、次の①～④について承諾した上で出願してください。

今年度のへき地医療拠点病院体験活動は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。

これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課します。

① 大分県医師修学資金貸与制度

大分大学医学部に総合型選抜（地域枠）で入学した学生全員に、大分県医師修学資金が貸与されます。

(ア) 貸与額

貸与額は、本学の入学料及び授業料に相当する額と修学支援金月額5万円です。

※貸与額は、入学料・授業料改定によって変更することがあります。

(イ) 返還の免除

大学卒業後、キャリア形成プログラムの対象となり、同プログラムに基づき大分県知事の指定する医療機関において、貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合、全額返還を免除します。

※詳細は大分県作成の「令和4年度(2022年度)大分県医師修学資金貸与制度のしおり(総合型選抜の地域枠入学生向け)」で確認してください。

《問合わせ先》

大分県福祉保健部医療政策課地域医療推進班
〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号
TEL 097-506-2658 FAX 097-506-1734

② 地域医療研修会

地域枠入学者は、大分県が毎年実施する「地域医療研修会」に参加していただきます。

③ キャリア形成プログラム

地域枠入学者は、卒業後、キャリア形成プログラムの対象となります。

※キャリア形成プログラムとは、平成30年(2018年)7月の医療法の一部改正に伴い規定されたもので、医師不足地域の医師確保と当該地域に派遣される医師のキャリア形成の両立を目的として、卒業後、返還免除のため指定医療機関において勤務する期間(原則貸与期間の2分の3)の就業先や研修先をあらかじめ大まかに定めておくものです。

④ その他

地域枠入学者は、入学後に一般枠への変更はできません。

令和5年度（2023年度）
総合型選抜 学生募集要項（抜粋）

1. 募集人員

医学部医学科 25名（一般枠 22名、地域枠 3名）

地域枠定員については、文部科学省等に地域枠に係る臨時定員増の申請を行う予定です。承認された場合及び承認されなかった場合の募集人員は、それぞれ下記のとおりとします。

なお、地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合でも、大分県における医師確保の観点から、一般選抜（前期日程）一般枠募集人員を55名から45名に、総合型選抜地域枠募集人員を3名から13名に変更することとします。

審議結果（令和4年（2022年）10月下旬～11月上旬を予定）が分かり次第、本学ホームページで発表します。

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認された場合の募集人員】

【現在の募集人員】

総合型選抜	一般枠 22名	計 25名
	地域枠 3名	
一般選抜 (前期日程)	一般枠 55名	計 65名
	地元出身者枠 10名	

総合型選抜	一般枠 22名	計 35名
	地域枠 13名	
一般選抜 (前期日程)	一般枠 55名	計 65名
	地元出身者枠 10名	

【地域枠に係る臨時定員増の申請が承認されなかった場合の募集人員】

総合型選抜	一般枠 22名	計 35名
	地域枠 13名	
一般選抜 (前期日程)	一般枠 45名	計 55名
	地元出身者枠 10名	

2. 出願資格 ※一般枠と地域枠との併願は認められません。

【一般枠】

高等学校、中等教育学校、特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等を令和3年（2021年）3月以降に卒業した者及び令和5年（2023年）3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため、令和4年（2022年）4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含みます。）で、大学入学共通テストの実施教科・科目のうち本学が指定した教科・科目を受験し、かつ、次の要件を満たす者です。

- (1) 高等学校等における学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が**A段階**に属する者
※④に該当する者については、調査書に④と表示してください。
- (2) 臨床医あるいは医学研究者として活躍しようとする、明確な目的意識を持ち、病める人々への思いやりと共感、生涯学習への意志と体力を持った者
- (3) 合格した場合は、入学することを確約できる者

【地域枠】

上記出願資格に加え、次の要件を満たす者です。

- ・大分県内の小学校又は中学校を卒業し、大学卒業後、大分県の地域医療に貢献したいという強い意志を有する者

※今年度のへき地医療拠点病院体験活動（地域枠のみ）は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課します。詳細は6ページを確認してください。

9. 選抜方法等

(1) 選抜方法

【第1次選考】

一般枠、地域枠ともに、大学入学共通テストの成績により第1次選考（一般枠、地域枠ともに募集人員の約2.5倍）を行い、第2次選考の対象者を決定します。

※第1次選考の結果については、通知書を令和5年（2023年）**2月7日（火）に受験者全員へ電子郵便で出願時に登録した現住所へ通知**します。翌日の12:00までに未着の場合は、最寄りの集配郵便局に問い合わせてください。

第1次選考合格者は、第2次選考試験当日に、必ず「**大分大学受験票**」と「**大学入学共通テスト受験票**」の**2種類**を忘れずに持参してください。

【第2次選考】

一般枠、地域枠ともに、面接（個人面接及びグループディスカッション）を行い、自己推薦書、調査書、特別活動に関する調査書、課題小論文（地域枠のみ）及び大学入学共通テストの成績を総合的に評価し、合格者を決定します。

同点者がいる場合は、大学入学共通テストの総得点の高得点者、大学入学共通テストの理科の高得点者の順に高順位とします。

(3) 第2次選考試験期日

試験期日	試験時間	試験科目
令和5年（2023年）2月12日（日）	午前の部：9時00分～	面接（個人面接・グループディスカッション）
	午後の部：13時00分～	

(6) 地域枠について

地域枠志願者は、次の①～④について承諾した上で出願してください。

今年度のへき地医療拠点病院体験活動は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、受験者・患者・医療関係者の安全を考慮した結果、中止します。

これにより、地域枠受験者には地域医療に関する課題小論文を一律に課します。

① 大分県医師修学資金貸与制度

大分大学医学部に総合型選抜（地域枠）で入学した学生全員に、大分県医師修学資金が貸与されます。

(ア) 貸与額

貸与額は、本学の入学料及び授業料に相当する額と修学支援金月額5万円です。

※貸与額は、入学料・授業料改定によって変更することがあります。

(イ) 返還の免除

大学卒業後、キャリア形成プログラムの対象となり、同プログラムに基づき大分県知事の指定する医療機関において、貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間を医師として勤務した場合、全額返還を免除します。

※詳細は大分県作成の「令和5年度(2023年度)大分県医師修学資金貸与制度のしおり(総合型選抜の地域枠入学生向け)」で確認してください。

《問合せ先》

大分県福祉保健部医療政策課地域医療推進班
〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号
TEL 097-506-2658 FAX 097-506-1734

② 地域医療研修会

地域枠入学者は、大分県が毎年実施する「地域医療研修会」に参加していただきます。

③ キャリア形成プログラム

地域枠入学者は、卒業後、キャリア形成プログラムの対象となります。

※キャリア形成プログラムとは、平成30年(2018年)7月の医療法の一部改正に伴い規定されたもので、医師不足地域の医師確保と当該地域に派遣される医師のキャリア形成の両立を目的として、卒業後、返還免除のため指定医療機関において勤務する期間(原則貸与期間の2分の3)の就業先や研修先をあらかじめ大まかに定めておくものです。

④ その他

地域枠入学者は、入学後に一般枠への変更はできません。

【講義・実習名：早期体験実習】

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
AM12Z301		早期体験実習(Introduction to Clinical Practice)					導入教育科目 福祉・地域	対面									
		*大分を創る科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	1	1	医学部医学科	通年	金4,他	氏名 北野 敬明 (医)											
						E-mail tkitano@oita-u.ac.jp 内線 5943											
<p>授業の概要</p> <p>医学教育モデルコアカリキュラム(A~G)の最初の項目「A医師として求められる基本的な資質・能力」をまず十分認識し、医師になるために必要な今後の学修を行う意欲・意義を認識するための早期医療体験実習である。1. 大分大学医学部附属病院早期体験実習(3日間) 大学病院での最先端医療見学し、チーム医療の中の医師の役割を認識する。具体的には29診療科(22編成)の1つを体験実習する。2. 学外病院・施設での介護等体験実習(2泊3日): 病気が障がいからの回復・社会復帰をサポートする大分県内の中核病院で多職種連携のチーム医療を体験する。別府発達医療センター、国立病院機構西別府病院、別府リハビリテーションセンター、湯布院厚生年金病院のうち1ヶ所で体験実習する。注) 到達目標の付加番号は医学教育モデルコアカリキュラムの対応番号であり、原本を必ず参照すること。</p>																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	A-1-1)	医の倫理と生命倫理								○	○	○					
目標2	A-1-2)	患者中心の視点					○		○	○							
目標3	A-2-1)	課題探求・解決能力					○	○			○						
目標4	A-2-2)	学修の在り方					○	○			○						
目標5	A-4-1)	コミュニケーション						○		○							
目標6	A-4-2)	患者と医師の関係						○		○	○						
目標7	A-5-1)	患者中心のチーム医療						○		○	○						
目標8	A-6-1)	安全性の確保					○	○				○					
目標9	A-6-2)	医療上の事故等への対処と予防					○	○			○	○					
目標10	A-6-3)	医療従事者の健康と安全					○	○				○					
授業の内容																	
1 大分大学医学部附属病院早期体験実習(3日間)																	
2 学外病院・施設での介護等体験実習(2泊3日)																	
3 体験発表会																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	今後の生涯学修を行うスタートラインに立った新入生の「知識の定着・確認」「意見の表現・交換」の活動を促進する実習と考えるが、実際の現場実習であるので、少ないながら「応用志向」「知識の活用・創造」も実践できる。				工夫	その	他の	大学病院では、屋根瓦方式の教育をとり、指導医・上級医だけでなく、研修医、医学部上級生からの指導も受け、双方の教育・学修効果を上げる。学外病院でも看護チームメンバーとして活動し、マンツーマンでの指導が行われている。							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	派遣される大学病院診療科および学外病院・施設でどのような医療が行われているかを事前に把握するために、HP等を参照し事前学修をおこなう事。 http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf を参照する事。								事後学修	実習終了後の新入生が経験した実習体験を共有し、教育・学修効果を上げるために、体験発表会を実施する。						
教科書	医学教育モデルコアカリキュラム(平成28年度改訂版) http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf																
参考書	1. 医政発第0726005号「医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について」 http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf 2. 大分大学医学部附属病院外来案内および大分大学医学部附属病院HP																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	実習レポート	30%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	体験発表会の発表内容	20%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	実習先病院の評価	50%	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
注意事項	大分大学医学部学生という自覚の下に、各施設の業務の支障とならない様に指示に従う(2)実習中の患者・入所者の情報を、決して口外しない(守秘義務)(3)時間厳守(5分前集合)(4)実習時は、仲間同士の私語及び不用意な発言は慎む(5)新型コロナ感染状況により実施内容が変更される場合があり注意する事																
備考	事前に配布する、医師法第17条に関する文書「医政発第0726005号」を良く読み理解しておくこと。 http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf																
リンク	医師法第17条に関する文書「医政発第0726005号」 URL http://www.med.oita-u.ac.jp/meded/0726005.pdf																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	全ての教員は、医師・看護師、薬剤師、臨床工学士、理学・作業・言語療法士などの国家資格及びそれに準ずる資格を持ち医療現場での実務者である。
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	全ての指導担当者は、医師・看護師、薬剤師、臨床工学士、理学・作業・言語療法士などの国家資格及びそれに準ずる資格を持ち医療現場での実務者である。
実務経験を いかした教 育内容	教科書に書かれている内容だけでなく、実際の現場で得られる真理があることを認識できる良い機会と考える。

【講義・実習名：総合診療科・総合外科の地域医療実習】

授業科目名	必修・選択別	単位数	対象学年	学期	曜・限	担当教員
総合診療科・総合外科	必修	2	3	2	月～金	宮崎英士 白石憲男 他
【科目名の英文】 General Medicine／Comprehensive Surgery						
【授業のねらい】						
<ul style="list-style-type: none"> ・医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、常に患者中心の立場に立つ ・患者やその家族との対話を通じて、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション技法を学ぶ ・保健・医療・福祉・介護及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する能力を育む ・地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する ・在宅医療と介護の基本を学ぶ ・プライマリ・ケアで頻度の高い症候・疾患に対する内科的・外科的診療の基本的な考え方を学ぶ 						
【具体的な到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> ① 臓器別の知識を統合し、症候から診断に至る過程、治療法の選択について概説できる ② 患者の心理的・社会的背景を知る必要性を概説できる。 ③ 患者の心理的・社会的背景を理解しつつ、患者や家族と良好な関係を構築できる。 ④ 患者のプライバシーに配慮し、患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる ⑤ チーム医療の意義、医療チームの構成や各構成員（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制を説明できる ⑥ 地域包括ケアシステム概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性、介護保険制度などの医療保険福祉制度を概説できる ⑦ 介護の定義と種類を説明でき、日常生活動作<ADL>（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる ⑧ 社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因(social determinant of health)）を概説できる。 ⑨ プライマリ・ケアにおいて頻度の高い疾患について、症候・病態生理・診断・治療について概説できる。 						
【授業の内容】						
回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法		
1	腹部診断学(1)	腹痛の診かた	総合外科・白石	講義 (PBI)		
2	治療学(1)	炎症性疾患に対する治療 (1)	総合外科・上田・川崎	講義 (PBI)		
3	特別講演	看護師の特定行為について	看護部・大亀	講義		
4	チュートリアル1	地域医療と総合診療	総合診療科・宮崎	PBL・発表		
5	チュートリアル2	臨床推論	総合診療科・塩田	PBL・発表		
6	チュートリアル3	行動変容	総合診療科・山本	PBL・発表		
7	腹部診断学(2)	黄疸の診かた	総合外科・川崎	講義 (PBI)		
8	腹部診断学(3)	悪性腫瘍の診かた 腫瘍学総論	総合外科・上田	講義 (PBI)		
9	特別講演	MSWの役割、医師との関わり	MSW・脇坂	講義		
10	特別講演	在宅緩和ケア	顕田病院・吉田	講義		
11	チュートリアル4	多職種連携／地域包括ケア	総合診療科・土井	PBL・発表		
12	地域連携学	地域医療の醍醐味	非常勤・小野	講義		
13	特別講演	保健所の業務	豊肥保健所長	講義		
14	特別講演	緩和ケアのパラダイムシフト	飯塚病院・柏木	講義		
15	医療総論	専門医・キャリアパス形成について	総合外科・上田/川崎	講義		
16	治療学(7)	プライマリ・ケアでの小外科	総合外科・白石	講義 (PBI)		
17	オリエンテーション	地域医療実習オリエンテーション	総合診療科・山本	講義		

18	チュートリアル5	BPS モデル	総合診療科・吉村	PBL・発表
19	特別講演	プライマリ・ケア	藤沼	講義
20	地域医療実習	シャドウイング	各病院	実習
21	特別講演	外科周術期における疼痛／緩和ケア	看護科・寺町	講義
22	医療総論	コミュニケーションツールとしての手紙の書き方	総合診療科・山本	講義・実習
23	チュートリアル8	地域医療の実際	非常勤・藤谷	PBL・発表
<p>【アクティブラーニングの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療において頻度の高い症例を用いた学習では、チュートリアル形式や Problem based Interview(PBI) を採用し、学生に診断や治療について自発的・積極的に考える機会を与える。医師としての自覚とやりがいを伝授する。また、この際、同領域の医師国家試験の既出問題も紹介する ・実習では、在宅医療、介護医療を経験し、医師としての社会性を自覚させる 		<p>【その他の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療に興味を持ち、理解を深める目的にて、実習前に地域医療の医療サービスや地域包括ケアシステムなどについての学習を行う ・講義や実習では、急性期から回復期や慢性期への医療マネジメントの考え方、および医療機関の連携の在り方を学ぶ 		
<p>【時間外学習の内容と時間の目安】</p> <p>事例について、時間が不十分であれば時間外に自己学習する。 また、時間外学習としてチュートリアルに関するレポート作成を行う（計8時間程度）</p>				
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療学入門（責任編集）岡崎仁昭、松本正俊（監修）日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域・医療教育協議会合同編集委員会、診断と治療社 2019年7月 ・地域医療テキスト（編集）梶井英治、（執筆）中村伸一ほか、（監修）自治医科大学、医学書院、2009年3月 ・新・総合診療医学 家庭医療学編第2版、（著者）藤沼康樹、カイ書林、2015年2月 				
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例で学ぶ外科診療 Clinical Scenarios in Surgery、（編集）Justin B. Dimick, Gilbert R. Upchurch Jr, Christopher J. Sonnenday、（訳）安達洋祐、医学書院、2017年9月 ・米国式 Problem-Based Conference（著者）町淳二・児島邦明、医学書院、2003年12月 				
<p>【成績評価方法及び評価の割合】</p> <p>講義出席（30%）、地域医療実習評価（20%）、試験（50%）、60点以上を合格とする。 ただし、地域医療実習評価に問題のあるものは単位を認めない。</p>				
<p>【注意事項】</p>				
<p>【備考】</p>				
教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	医師		
教員以外で指導に関わる実務経験の有無	<input type="radio"/>	医師		
実務経験をいかした教育内容	3年生の地域医療実習では、シャドウイングとして外来の見学実習を行う。その際に、実際の現場で医師としての仕事を見せていただく。			
授業形式	対面授業			

【講義・実習名：研究室配属】

授業科目名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学期	曜・限	担当教員
研究室配属	必修	5 (講義2 実習3)	4	1	月一金	各講座 指導教官
【科目名の英文】 Practical Research Experience Program (PREP)						
【授業のねらい】 国内・国外の研究施設を問わず、研究活動に従事している医師・研究者から早期に研究指導を受けることにより、研究の重要性・醍醐味を知ること、研究的探究心（リサーチマインド）を育むことを目的とする。また、将来の医学研究を担う人材として、研究チームの一員として協調的な学習環境の中で問題解決能力を高め、生命医学領域に対する学習意欲の向上につなげる。発展的な目標として、「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース（ORPhD プログラム）」への意識付けの機会を提供する。						
【具体的な到達目標】 ① 必要な課題を自ら発見できる。（A-2-1-①） ② 自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。（A-2-1-②） ③ 課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。（A-2-1-③） ④ 課題の解決に当たり、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。（A-2-1-④） ⑤ 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。（A-2-2-①） ⑥ 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。（A-2-2-②） ⑦ 実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。（A-2-2-③） ⑧ 研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。（A-8-1-①） ⑨ 生命科学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。（A-8-1-②） ⑩ 患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。（A-8-1-③） ⑪ 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することができる。（A-8-1-④） ⑫ 医学研究と倫理（それぞれの研究に対応した倫理指針と法律）を説明できる。（B-3-1-①）						
【授業の内容】 <ul style="list-style-type: none"> 特定の研究テーマに焦点を絞り、それを扱う研究室で実際の研究活動に従事し経験を深める。 様々な研究テーマの存在について知り、それらのテーマを解明するための方法論を実践することを通して、発見の喜び、研究者の苦悩、研究者間の交流や情報交換などに直接触れる機会を持つ。 研究室で行われている研究・実験の補佐から共同研究者としての活動、実験やフィールドで得られたデータの処理や解析などを指導教員や大学院生とともに行う。 可能であれば学会発表、論文執筆なども体験する。 配属期間の最後に発表会を行い、研究の成果を口頭またはポスターで発表する。 研究室配属実行委員をあらかじめ決め、配属先の決定やプログラム作成など発表会の企画運営を含め、基礎医学部会教員の指導を仰ぎながらすべて学生主導で行う。 将来の学会運営と発表のシミュレーションを行うことも目的とする。 						
[学外機関（国内、国外）での研究を希望する場合] <ul style="list-style-type: none"> 学生が自分でコースと研究内容を企画し、事前に学内窓口となる教員へ依頼する。 						

- 学生自身が事前にコース企画書を作成し、受入れ先指導者の受入れ承諾のメール等を提出して、基礎医学部会からの承認を受けることが必要となる。
- カリキュラムの企画、国内外受け入れ機関との交渉は学生自身が行う。
- 保護者の同意書を得て、渡航費、滞在費は各自の負担とし、また傷害保険への加入を義務づける。
(国外派遣の場合には、語学能力検定の結果(写)を添付する。)

[研究成果の発表]

1. 報告書

指導教官の指示に従い、期間内(先行配属期間も含む)に実施した研究内容をまとめる(下記参照)。また、報告書の作成に当たっては、研究実施内容を実習参加学生にも理解できるよう努める。このことで学生の研究実施分野以外の領域への理解を深め、今後の学習意欲の向上を図る。

(例)「課題解決研究」のまとめ方

①目的(研究背景)、②方法、③結果(図表を含めてもよい)、④考察、⑤(必要であれば)参考文献といった一般的な論文形式でまとめることとする。

(例)「課題発掘研究」のまとめ方

①当該分野の背景、②課題・問題点、③課題解決に向けた方法(提案)とその根拠、④参考文献

2. 発表

研究室配属に参加した学生は、口頭発表もしくはポスター発表のいずれかの方法で(状況に応じてZoom・オンデマンド方式への変更もあり得る)、指導教官(指導講座)以外の教員・学生に対して研究成果を報告する。発表することにより、学生の発表技術向上を目指すとともに、当該分野以外の研究者・学生に「気づき」をもたらすことを期待する。

<p>【アクティブラーニングの内容】 全体を通して学生自ら目標を定め、計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく「主体的な学び」を行う。</p>	<p>【その他の工夫】 上記すべて</p>
<p>【時間外学習】 原則、研究時間は月曜から金曜の8:30-16:30(所属する研究室や教員の都合によりこの限りではない。)</p>	
<p>【教科書】 適宜</p>	
<p>【参考書】 適宜</p>	
<p>【成績評価方法及び評価の割合】</p> <p>① 学内での研修の場合は、配属先の教授及び担当教員から単位認定を受ける。</p> <p>② 学外(国内外)での研修の場合は、窓口教員が配属先の教員との合議の上で認定する。</p> <p>③ 配属期間内の内容を発表会で報告(口頭またはポスター)し、併せてレポートとしてまとめ、のちに報告集として発刊する。</p> <p><研究室配属の学生による評価方法> 研究室配属に関するアンケートを実施する。</p> <p><進級、再履修> 研究室配属の評価が不可(60点未満)の場合は留年とする。 留年した場合の再履修は次年度の配属の期間に行う。</p> <p>教員側の評価項目(参考)</p>	

<ol style="list-style-type: none"> 1. 期間中に何を行ったかについてレポート（様式自由）と期間中に記録したノートの提出（操作内容、実験データ、科学的な言葉で記載されているか、論旨の誤り、飛躍はないか等） 2. 与えられた研究テーマに対する理解力と問題解決能力、批判する能力 3. 知識・技能の到達度 4. 英文原著論文の読解力 5. コミュニケーションスキル能力（指導教員、講座内メンバーと良好な人間関係が築けたか） 6. 積極性 <p>上記の項目及び報告書の内容を総合的に判断し、研究指導教員（もしくは指導講座の講座責任者）が評点をつける。</p> <p>発表に関しては、今後の学生の研究意欲向上を奨励する目的で、優れた発表を指導教員以外の教員と学生により投票を行い、上位のものを表彰する。</p>	
<p>【注意事項】</p> <p>研究に際し遺伝子組換え実験、ラジオアイソトープ、実験動物の使用を行う場合には、事前に講習会や当該施設利用のための研修会に参加し、利用規則を遵守する。その他危険物、感染性病原体を取り扱う場合も、厳重な注意が必要である。</p> <p>患者臨床データにおける個人情報を取り扱う研究テーマに関しては、必要に応じて倫理委員会での承認の上、特に慎重に実施する。</p>	
<p>【備考】</p> <p>研究室配属の詳細やタイムスケジュール等に関しては、学務課や実行委員の指示に従うこと。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、スケジュールの変更等が予測されます。特に学外実習（海外実習は中止）の実施については、配属先の担当教員の指示に従って下さい。</p>	
教員の実務経験の有無	○ 医師， 歯科医師， その他研究に関わる教員
教員以外で指導に関わる実務経験の有無	○ 医師， 歯科医師， その他研究に関わる職員
実務経験をいかした教育内容	教職員は自らの研究活動を元に、配属学生の研究活動への支援を行う。
授業形式	対面

【講義・実習名：臨床実習（Stage1）の地域医療実習】

地域医療実習の手引き

期日：令和3年9月6日～11月12日

実習の2週間前に、必ず担当医の先生、および事務担当の方に連絡を入れてください。

（詳細は各病院のページを参照）



大分大学医学部地域医療学センター

地域医療実習の手引き

(令和3年9月6日～11月12日)

実習の2週間前に、必ず担当医の先生、および
事務担当の方に連絡を入れてください。

(詳細は各病院のページを参照)

大分大学医学部地域医療学センター

目 次

P1	目次		
P2	地域医療実習における注意事項		
P3	地域医療実習の一般目標、到達目標、行動目標		
P4-5	施設ごとの到達目標・行動目標		
P6	地域医療実習病院MAP		
P7	実習期間と学生の配属先		
P9-36	実習プログラム		
P 9-10	豊後大野市民病院	P25-27	国東市民病院
P11-12	津久見中央病院	P29-30	杵築市立山香病院
P13-14	JCHO 南海医療センター	P31-32	高田中央病院
P15-16	大分健生病院	P33-34	川島整形外科病院
P17-18	臼杵市医師会立コスモス病院	P35-36	天心堂へつぎ病院
P19-20	大分岡病院	P37-38	宇佐高田医師会病院
P21-22	佐賀関病院	P39-40	JCHO 湯布院病院
P23-24	竹田医師会病院	P41-42	中津市立中津市民病院
P43-	クリニカル・クラークシップの手引き（参考資料）		
P48-	「臨床研修の到達目標」について（参考資料）		
P56-	「医学生の臨床実習における医行為と水準」の例示（参考資料）		
P57-	医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける地域医療教育（参考資料）		
P58-	患者さんアンケート（アンケートへのご回答の御願い）		
P59-	指導医による学生の評価		
P60-	学生による地域医療実習の評価		
P61-	地域医療実習 実習責任者・担当者		

地域医療実習における注意事項

実習を始めるにあたり

大分大学医学部は、大分県の高度先進医療・医学研究の拠点であると同時に、大分の地域医療を支える役割も担っている。近年、地域医療に対する社会的ニーズが高まっていることを踏まえ、大分大学では医学科5年生を対象に地域医療実習を開始した。本実習は、地域医療の第一線で活躍されている地域中核病院・診療所・介護保険施設の医師・看護師をはじめとするスタッフの方々、保健所・市町村行政の方々、および地域住民の方々から、多大な御協力を頂くことにより、初めて実現可能となったものである。

実習にあたり特に注意すること

- 1) 患者の“個人情報保護”を遵守すること。
- 2) 自身の健康に気をつけ、万全の体調で実習に臨めるように体調管理すること。
- 3) 各病院のルールに従い感染予防対策を行うこと
- 4) 時間を遵守すること。
- 5) 実習を欠席する場合は実習先病院と地域医療学センターに学生本人から連絡を入れること。
- 6) 挨拶を欠かさないこと。
- 7) 実習に相応しい服装、身なりをすること。
- 8) 患者には丁寧な言葉使い、誠実な態度で応接すること。

準備するもの

- 1) “清潔な”白衣
- 2) 名札
- 3) 聴診器、ペンライトなどの診察用具
- 4) 筆記用具・ノート類
- 5) 上履き（スリッパ不可）
- 6) マスク

その他の注意事項

- 1) 各自、配属先の病院連絡欄を一読し、実習配属の2週間前に担当医師および事務担当の方々に連絡を必ず入れること。実習先から個別にメールが来ることがあるので、必要な場合には速やかに返信すること。
(本手引きに記載のない担当医師のメールアドレスは、個別にメールでお知らせます)
- 2) 実習初日(第2クールは火曜日)の集合は9時(時間厳守)に管理棟3階中会議室です。

【大分大学地域医療実習における心得】

- 学生といえども、診療チームの一員として患者診療に『責任』を持って関わること。
- 自分のできる範囲で、自分の獲得している知識、技能、態度を使って患者に貢献すること。
その時、初めて自分には何が出来て、何が出来ないのかを知ることができる。
- 日々の研修を通して、貢献できる範囲を広げていけるようにする。

地域医療実習の一般目標、到達目標、行動目標

【一般目標】

地域医療に貢献する能力を身につけるために、体験学習をとおして地域医療の現状および課題を理解し、地域医療における医師・患者関係および保健・医療・福祉・介護のネットワークを学び、地域住民が必要とする医療について考える。

【到達目標】

- 1) 地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在の現状を概説できる。
- 2) 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- 3) かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- 4) 患者の健康の社会的決定要因（SDH）を聴き取り、必要な社会的処方提案できる。
- 5) 地域医療を支える他職種の役割を説明できる。
- 6) 地域における救急医療、在宅医療の体制を説明できる。
- 7) 地域医療に積極的に参加・貢献する。

【行動目標】

- 1) 地域中核病院における病棟診療、外来診療に参加する。
- 2) 地域中核病院における救急医療（当直）に参加する。
- 3) 診療所における外来診療に参加する。
- 4) 訪問診療、訪問看護に参加する。
- 5) 保健所における業務に参加し、保健活動を体験する。
- 6) 介護保険施設における福祉、介護を体験する。
- 7) 医療スタッフと地域医療について語り合う。
- 8) 行政関係者や地域住民と医療について語り合う。
- 9) 担当患者の主治医意見書を作成する。

施設ごとの到達目標・行動目標

中核病院における病棟実習

- ① 1名の患者を2週間にわたり担当する。
- ② 原則として毎日、担当患者の問診、診察を行い、カルテ(学生用)に記載するとともに、日々の変化を主治医、あるいは看護師へ報告し、対処方法について検討する。
- ③ 担当患者の疾患のみならず、家族、暮らしている環境、地域、健康の社会的決定要因(SDH)について理解する。
- ④ 担当患者の処置、検査、手術、リハビリ等に立ち会い、指示された役割を果たす。
- ⑤ 担当患者の主治医意見書を作成する。
- ⑥ 病棟患者の看護的業務の介助を行う。
- ⑦ 病棟カンファレンスや医療ソーシャルワーカー(MSW)の業務見学などを通じて、病院とその他の医療、介護・福祉施設との医療連携について理解する。
- ⑧ 機会があれば臨終に立会い、死後処置などを見学する。
- ⑨ 任された業務において、責任を持って患者に貢献するよう努める。

中核病院における救急(当直)実習

- ① 指導医とともに夜間当直を行う。
- ② 指導医の指導・監視の下、診察を行う。
- ③ 指導医の指導・監視の下、検査(心電図、検尿、採血など)を行う。
- ④ 指導医の指導・監視の下、治療(創傷処置、止血、縫合など)を行う。
- ⑤ 気管内挿管、心臓マッサージ、電気的除細動の介助、見学を行う。
- ⑥ 指導医の許可の下、患者、家族への病状説明に同席する。
- ⑦ 地域における救急医療および災害医療の体制を理解する。
- ⑧ 救急隊からの救急患者受け入れの流れを理解する。

中核病院における外来実習

- ① 初診患者の問診、身体診察を行い、診断・治療方針を自ら考える。
- ② 指導医の外来診察を見学し、患者-医師関係、臨床推論の仕方を理解する。
- ③ 再来患者の問診、血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定を行う。
- ④ 外来における処置の介助を行う。

診療所における外来実習

- ① 指導医の診察を見学し、医師-患者コミュニケーションや診察における技能や態度を学習する。
- ② 初診患者の問診および身体診察を行い、臨床推論を立てる。
- ③ 再来患者の血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定を行う。
- ④ 指導医の指導・監視の下、心電図、超音波検査を行う。
- ⑤ リハビリの介助を行う。
- ⑥ 創傷処置、皮膚消毒、包帯交換の見学、介助を行う。
- ⑦ 患者・家族へのインタビューから住民が診療所に期待する思いを理解する。

訪問診療実習

- ① 訪問診療(往診)に同行する。
- ② 訪問先で血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定、身体診察などを行う。
- ③ 患者の異変を察知する努力をする。
- ④ 患者および家族とのコミュニケーションを図る。
- ⑤ 患者および家族との会話から、在宅医療のメリット・デメリットを知る。
- ⑥ 患者の家族構成・居住環境を確認し、問題点とその解決策を考える。
- ⑦ 患者に必要な医療、福祉、介護について考える。

訪問看護ステーションにおける実習

- ① 訪問看護に同行する。
- ② 訪問先で血圧・体温・酸素飽和度(SpO₂)測定、身体診察などを行う。
- ③ 看護的業務(体位変換、おむつ交換、移送など)の介助を行う。
- ④ 患者および家族とのコミュニケーションを図る。
- ⑤ 患者および家族との会話から、在宅医療のメリット・デメリットを知る。
- ⑥ 患者の家族構成・居住環境を確認し、問題点とその解決策を考える。
- ⑦ 患者に必要な医療、福祉、介護について考える。

保健所における実習

- ① 地域の保健業務について学習する。
- ② 地域における予防医療の重要性を理解する。
- ③ 保健師の家庭訪問に同行し、その活動を体験する。
- ④ 食中毒や集団感染症の対応を見学する。
- ⑤ 地区の健康相談会などで業務を分担する。
- ⑥ 地域住民に対して健康講話を行う。

福祉施設における実習

- ① 看護的業務(体位変換、おむつ交換、移送など)の介助を行う。
- ② 入浴介助、食事介助などを手伝う。
- ③ リハビリテーションに参加し、介助を行う。
- ④ 入居者と懇談する等、コミュニケーションを図る。
- ⑤ ケア・カンファレンスに参加する。

市町村健康福祉課での実習

- ① 市長あるいは健康福祉課長から地域医療の現状について話を聞く。
- ② その地区の医療・保健・福祉のネットワークについて理解する。
- ③ 乳幼児検診・三歳児検診などに参加し、介助を行う。
- ④ 住民の健康相談に立ち会う。
- ⑤ 地域住民の医療ニーズを理解する。

地域医療実習病院

- ① 豊後大野市民病院
- ② 津久見市医師会立津久見中央病院
- ③ JCHO 南海医療センター
- ④ 大分健生病院
- ⑤ 臼杵市医師会立コスモス病院
- ⑥ 大分岡病院
- ⑦ 佐賀関病院
- ⑧ 竹田医師会病院
- ⑨ 国東市民病院
- ⑩ 杵築市立山香病院
- ⑪ 高田中央病院
- ⑫ 川島整形外科病院
- ⑬ 天心堂へつぎ病院
- ⑭ 宇佐高田医師会病院
- ⑮ JCHO 湯布院病院
- ⑯ 中津市民病院



実習プログラム

P 9-10	豊後大野市民病院
P11-12	津久見中央病院
P13-14	JCHO南海医療センター
P15-16	大分健生病院
P17-18	臼杵市医師会立コスモス病院
P19-20	大分岡病院
P21-22	佐賀関病院
P23-24	竹田医師会病院
P25-27	国東市民病院
P29-30	杵築市立山香病院
P31-32	高田中央病院
P33-34	川島整形外科病院
P35-36	天心堂へつぎ病院
P37-38	宇佐高田医師会病院
P39-40	JCHO湯布院病院
P41-42	中津市立中津市民病院

豊後大野市民病院

病 院 長： 木下 忠彦

住 所： 豊後大野市緒方町馬場276番地

交 通： 大分駅からJR豊肥本線「緒方」駅下車、病院まで徒歩10分

実 習 責 任 者： 木下 忠彦(事業管理者兼院長)

実 習 担 当 者： 岩尾 哲(副院長) 森井 雄治(副院長)
棚橋 仁(消化器内科部長) 加島 尋(糖尿病・代謝内科部長)
一宮 朋来(呼吸器内科部長) 其田 和也(外科部長)

実習協力施設： 三重東クリニック 特別養護老人ホーム任運荘 障がい者支援施設騰々舎
大分県豊肥保健所 豊後大野市役所

宿 泊 先： 豊後大野市民病院地域医療研究研修センター(学生専用の宿泊施設)

実習担当医師連絡先： 岩尾 哲 先生 (iwao@oita-u.ac.jp)
事務担当者連絡先： 医事経営課 内田 健児さん (keiei-k@bungo-ohno-hp.jp)
連絡事項：
実習の2週間前に岩尾先生と内田さんへメールで連絡をしてください。

実習に際しての注意事項：

1. 不明な点を自分だけで解決せずに担当医、あるいは事務担当者に遠慮なく聞いて確認するように
2. 高齢者が多いので分かりやすい言葉ではっきり話すように
3. 高齢者に対し人生の先輩として敬意を払うように
4. 地域医療の現場を積極的に学ぶ
5. 院外の先生たちに礼儀正しく規則を守って学ぶ



豊後大野市民病院

- 2021年度 地域医療実習スケジュール -

第1週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	実習の概要説明 (地域医療学センター)			
火曜日	オリエンテーション (豊後大野市民病院)	院長と昼食	病棟実習・患者担当 (豊後大野市民病院)	宿泊
水曜日	外来実習 (豊後大野市民病院)	昼食	リハビリ・検査科 放射線科実習 (豊後大野市民病院)	宿泊
木曜日	診療所での外来実習 (三重東クリニック)	昼食	診療所での往診 (三重東クリニック)	宿泊
金曜日	外来実習 (豊後大野市民病院)	昼食	行政、市民との懇談 講義・相談業務など (市役所市民生活課)	宿泊

第2週	午前	昼	午後	17時以降
月曜日	訪問看護・訪問に同行 (豊後大野市民病院、市内)	昼食	病棟実習・看護実習 (豊後大野市民病院)	宿泊
火曜日	特別養護老人ホーム 障がい者支援施設 (講義、デイケア等) (任運荘、騰々舎)	昼食	特別養護老人ホーム 障がい者支援施設 (回診、介護保険学習) (任運荘、騰々舎)	宿泊
水曜日	健診センター実習 (豊後大野市民病院)	昼食	保健所実習 (大分県豊肥保健所)	宿泊
木曜日	外来実習 (豊後大野市民病院)	昼食	巡回診療または病棟実習 (豊後大野市民病院)	宿舍片づけ
金曜日	発表会準備 (地域医療学センター)	昼食	発表会 (地域医療学センター)	

は地域医療学センターにて
 日程を変更する場合がありますのでご了承ください。

【講義・実習名：臨床実習（Stage1）の総合診療・総合内科】

総合診療・総合内科

集合場所： 基礎臨床研究棟 8F 総合診療・総合内科学講座医局

(内線 5106)

集合時間： 8 時 10 分

(第 1 週月曜日が休日の場合、翌火曜日の朝 8 時に全員集合のこと)

クラークシップ・ディレクター： 宮崎 英士 (PHS 2044)

アテンディング： 山本 恭子 (PHS 2515)

チーフ： 塩田 星児 (PHS 2215)

吉岩 あおい (PHS 2525)

吉村 亮彦 (PHS 2621)

土井 恵里 (PHS 2529)

宇都宮 理恵 (PHS 2049)

高崎 智美 (PHS 2524)

総合診療・総合内科

【一般目標】

様々な症候を呈する初診患者に対応する能力を身につけるために、基本的な医療面接手法、診察手技、臨床推論の立て方、およびコミュニケーションとプレゼンテーション技法を修得する。

【行動目標】

- ① 外来初診患者に対して適切に医療面接を実施できる
- ② 外来初診患者に対して適切に身体診察を実施できる
- ③ 臨床上の問題点を抽出した Problem List を作成できる
- ④ 症候から病態を考えることができる
- ⑤ 臨床推論を組み入れたプレゼンテーションを行うことができる
- ⑥ 患者の心理・社会的背景に配慮できる
- ⑦ 認知症患者と家族に共感した応対と診療サポートができる
- ⑧ 在宅医療において医師に求められる能力を説明できる
- ⑨ 救急現場での総合診療能力の必要性を説明できる
- ⑩ 実習する病院・診療所における総合診療医の役割を述べるができる

総合診療・総合内科学講座

第1週	月	火	水	木	金		
8:00~9:00	8時 オリエンテーション						
8:30~ 外来の振り返り(担当患者についてプレゼンテーション)							
9:00~10:00	外来実習	Aグループ (大学病院) 外来実習 *****	Aグループ (大学病院) 外来実習 *****	Aグループ (大学病院) 外来実習 *****	課題実習		
10:00~11:00					シミュレーション (山本)		
11:00~12:00		Bグループ 学外実習	Bグループ 学外実習	Bグループ 学外実習			
12:00~13:00	昼休み						
13:00~14:00	認知症の人への対応 (吉岩)	Aグループ (大学病院) ミニレクチャー/ 臨床推論	Aグループ (大学病院) ミニレクチャー /臨床推論 エコー実習	Aグループ (大学病院) ミニレクチャー /臨床推論	臨床推論 ロールプレイ (宮崎)		
14:00~15:00	もの忘れ外来 問診 (吉岩)			Bグループ 学外実習			
15:00~16:00	ミニレクチャー			Bグループ 学外実習			
16:00~17:00	病棟回診 カンファレンス	Bグループ 学外実習	Bグループ 学外実習	総合診療・総合内科 カンファレンス (Aグループのみ)			
17:00~18:00	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り			
第2週	月	火	水	木	金		
8:00~9:00							
8:30~ 外来の振り返り(担当患者についてプレゼンテーション)							
9:00~10:00	外来実習	Bグループ (大学病院) 外来実習 *****	Bグループ (大学病院) 外来実習 *****	Bグループ (大学病院) 外来実習 *****	発表準備		
10:00~11:00		Aグループ 学外実習	Aグループ 学外実習	Aグループ 学外実習			
11:00~12:00							
12:00~13:00	昼休み						
13:00~14:00	もの忘れ外来	Bグループ (大学病院) ミニレクチャー/ 臨床推論	Bグループ (大学病院) ミニレクチャー /臨床推論 エコー実習	Bグループ (大学病院) ミニレクチャー /臨床推論	発表準備		
14:00~15:00				***** Aグループ 学外実習		***** Aグループ 学外実習	発表会
15:00~16:00				***** Aグループ 学外実習		***** Aグループ 学外実習	***** Aグループ 学外実習
16:00~17:00	病棟回診 カンファレンス			総合診療・総合内科 カンファレンス (Bグループのみ)			
17:00~18:00	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り			

【講義・実習名：臨床実習（Stage2）の総合内科・総合診療科】

総合内科・総合診療科【Stage2】

1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

総合内科・総合診療科では、さまざまな症状で受診する外来患者に対し、病歴聴取・身体診察を行い、臨床推論、検査・治療法の提案、診療録記載、カンファレンスでのプレゼンテーションまで、外来診察の一連の流れを実習します。また、大学病院の総合診療科だけではなく、学外施設の総合診療科での診療参加型実習を通して、これからの高齢化社会においてニーズの高い総合診療について学びます。

【一般目標】

高齢化社会において必要とされる医師になるために、5年次生までに学んだ「医学知識・技能」をさらに向上させ、チーム医療の一員としての責任を果たすことができる。

【到達目標】

- ① 適切な病歴聴取と身体診察ができる。
- ② 高齢者特有の問題を的確に把握し、対応を考えることができる。
- ③ 鑑別診断を挙げ、診断に必要な検査と治療方針を提案できる。
- ④ 受け持った患者のプレゼンテーションを行うことができる。
- ⑤ POMR形式で診療録を記載できる。
- ⑥ 指導医・医療従事者と一緒にチーム医療を提供できる。
- ⑦ 実習で同席した下級生に対して適切なアドバイスができる。
- ⑧ 実習で、自ら問題を見つけ、これを解決する手段、すなわち「省察」を実践できる。

2. 実習の方法（行動・行動指針）

当科の実習は、学内・学外合わせて合計4週間とする。

学内：1-2週間 総合内科・総合診療科の外来実習

- ① プリセプティング・システムに則った外来実習を行う。
- ② 診断－治療－省察という基本的診療構造を学ぶ
- ③ 大学病院ならではの臓器横断症例や診断困難症例への対応・考え方を学ぶ。
- ④ 大学と地域の医療機関の連携を学ぶ。
- ⑤ POMR形式での診療録記載の仕方を学ぶ。

学外：2-3週間 大分県内外の関連病院での実習（次ページの施設に限る）

- ① 地域の診療所や病院でのプライマリ・ケア実習を行う。
- ② Common Diseaseの基本的な対応を学ぶ。
- ③ 肺炎、胆嚢炎、腸閉塞、尿管結石などの内科的救急医療実習を行う。
- ④ 心電図、超音波検査を指導医と共に実施する。
- ⑤ 地域に密着したプライマリ・ケアの重要性を理解する。
- ⑥ 学外から大学病院を俯瞰的に見て、医療連携の重要性を理解する。

★ 学外実習は1週間ずつ、複数の医療機関も選択可能である。学外実習は、事前説明会において決定するため、必ず参加すること。日時は後日メールにて連絡する。

★ 単なる病院見学ではなく、あくまでも病院実習である。

学外施設	場所	担当科	責任者
別府医療センター	別府市	総合診療科	久保 徳彦
大分赤十字病院	大分市	救急総合診療科	高橋 健
大分市医師会立アルメイダ病院	大分市	総合診療科	高倉 健
大分健生病院	大分市	総合診療科	酒井 誠
やまおか在宅クリニック	大分市		山岡 憲夫
渡辺内科医院	杵築市		大野 繁樹
宮崎医院	由布市庄内町		宮崎 美樹
よつばファミリークリニック	大分市		平山 匡史
姫島診療所	国東市	※ 応相談	三浦 源太
奈義ファミリークリニック	岡山県奈義町	※ 応相談	松下 明
飯塚病院 総合診療科	福岡県飯塚市	※ 応相談	井村 洋
亀田総合病院 家庭医診療科	千葉県鴨川市	※ 応相談	岡田 唯男

3. 実習上の注意事項

- (a) 時間厳守
- (b) Student Doctorとしての責任を自覚し、礼儀を守り行動すること。
- (c) 感染予防に努め、決められたルールに従った行動をすること。
- (d) 患者さんに対して誠実な態度で接すること。
- (e) 患者さんやその家族から「病状や治療方針、予後」などを訊かれても答えないこと。
- (f) 個人情報に対する守秘義務を守ること。

4. 実習スケジュール（学内実習）

注意事項)

実習初日（月曜日）は学内・学外を問わず、研究棟8F総合診療・総合内科学講座医局に集合すること。

時間/曜日	月	火	水	木	金
8:30~9:00	カンファレンス *学内実習者 全員参加* (基礎臨床研究棟 8F 総合診療・総合内科学講座医局)				
9:00~10:00	外来・病棟			初診外来 スキルスラボ	
10:00~11:00					
11:00~12:00					
12:00~13:00	休 憩				
13:00~14:00	外来・病棟・自学自習			14:00~ 5年生発表の評価	
14:00~15:00					
15:00~16:00				最終日 実習総括 *学内・外 全員参加*	
16:00~17:00					

※第4週の最後に行う実習総括は、学内・学外に関わらず、全員出席すること

【講義・実習名：臨床実習（Stage2）の総合外科・地域連携学】

総合外科・地域連携学【Stage2】

1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

地域中核病院（都市部と非都市部）での外科実習を通じて

- （1）一般的な外科疾患（surgical common disease）に対する適切な診察および診断技術を習得し、正しい治療選択ができる。
- （2）地域中核病院における初期・2次救急患者に対する適切な診断と処置ができる。
- （3）地域包括ケアにおける外科医の役割を学び、多職種との円滑な連携ができる。
- （4）地域における外科医療に対するニーズや問題点が説明できる。

2. 実習の方法（内容・行動指針）

- （1）病棟で一般的な外科疾患の患者を担当し、病棟や手術室での実際の診療に参加する
- （2）地域中核病院での外科外来診療、病棟診療に参加する。
- （3）地域中核病院における救急医療の診療に参加する。
- （4）地域の病院での外科患者に対する介護、リハビリ、福祉の連携を学ぶ。

3. 実習上の注意事項

- （1）患者さんの個人情報を守り、患者さんに誠意をもって接する。
- （2）実習にふさわしい服装、みなりをする。
- （3）時間を遵守し、挨拶をかかさない。

4. 「医学生の実習における医行為と水準」の例示

- （1）レベルⅠ：指導医の指導・監視の下で実施されるべき
一般手技：体位変換、移送、皮膚消毒、外用薬の貼付・塗布、診療記録
外科手技：清潔操作、手洗い、ガウンテクニック、縫合、抜糸、消毒・ガーゼ交換
検査手技：腹部超音波
- （2）レベルⅡ：指導医の実施の介助・見学が推奨される
一般手技：中心静脈カテーテル挿入、動脈採血、ドレーン挿入・抜去
外科手技：手術、術前・術中・術後管理、外傷処置
検査手技：超音波検査の判読、内視鏡検査

【スケジュール】

(第1週目)

曜日	担当教員	午前	午後
月	白石 上田 川崎	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 実習オリエンテーション ▪ 外来実習 (担当: 上田) 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ PBI: 腹痛の診方1 (虫垂炎) (担当: 白石) ▪ 肝胆膵カンファレンス
火		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 手術助手 ▪ 病棟診療 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ PBI: 腹痛の診方2 (胆石) (担当: 川崎) ▪ (実習) 腹部診察法 (担当: 上田)
水		<ul style="list-style-type: none"> ▪ カンファレンス・回診 ▪ 内視鏡検査 ▪ 外来実習 (担当: 川崎) 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ PBI: 黄疸の診方 (胆道炎) (担当: 川崎) ▪ 消化管カンファレンス
木		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 手術助手 ▪ 病棟診療 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ PBI: 腹壁形態異常の診方 (ヘルニア) (担当: 上田) ▪ (実習) 腹部エコー (担当: 川崎)
金		<ul style="list-style-type: none"> ▪ カンファレンス ▪ 手術助手・病棟診療 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ PBI: 嘔吐 (腸閉塞) の診方 (大腸癌) (担当: 上田) ▪ シミュレーター実習

※ 集合時間 8:30

集合場所 管理棟3階 地域医療学センター

(第2週目)

曜日	担当教員	午前	午後
月	学外実習 (大分岡病院)	【大分岡病院にての学外実習】 (8:00~17:00)	
火		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 外来診療実習 (一般外科・外傷を含む) ▪ 検査 (内視鏡、CT、エコーなど) ▪ 手術助手 (surgical common disease を中心に) ▪ 2次救急患者に対する診断、処置、治療 	
水			
木			
金			

※ 集合時間 8:00

集合場所 大分岡病院

(第3週目)

曜日	担当教員	午前	午後
月	白石 上田 川崎	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習総括 外来実習 (担当: 上田) 	<ul style="list-style-type: none"> PBI: 体重減少の診方 (胃癌) (担当: 白石) 肝胆膵カンファレンス
火		<ul style="list-style-type: none"> 手術助手 病棟診療 	<ul style="list-style-type: none"> PBI: (腹痛) 背部痛の診方 (膵炎 (癌)) (担当: 川崎) (実習) 消化管内視鏡を読む (担当: 上田)
水		<ul style="list-style-type: none"> カンファレンス・回診 内視鏡検査 外来実習 (担当: 川崎) 	<ul style="list-style-type: none"> PBI: 下血の診方 (肛門疾患) (担当: 白石) 消化管カンファレンス
木		<ul style="list-style-type: none"> 手術助手 病棟診療 	<ul style="list-style-type: none"> PBI: 腹膜炎の診方 (潰瘍性穿孔) (担当: 上田) (実習) 腹部 CT を読む! (担当: 川崎)
金		<ul style="list-style-type: none"> カンファレンス 動物を用いた手術実習 	

※ 集合時間 8 : 30

集合場所 管理棟3階 地域医療学センター

(第4週目)

曜日	担当教員	午前	午後
月	学外実習 (豊後大野 市民病院)	【豊後大野市民病院にての学外実習】 (8 : 00~17 : 00)	
火		<ul style="list-style-type: none"> 外来診療実習 (一般外科・外傷を含む) 検査 (内視鏡、CT、エコーなど) 手術助手 	
水		(surgical common disease を中心に)	
木		<ul style="list-style-type: none"> 1次救急患者に対する診断、処置、治療 	
金	白石・上田・川崎 (学内)	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンス 手術助手・病棟診療 	<ul style="list-style-type: none"> 2nd stage 総括 (白石・上田・川崎)

※ 集合時間 8 : 00

集合場所 豊後大野市民病院

医 政 第 8 8 7 号
令 和 4 年 8 月 2 3 日

厚生労働省医政局長 様

大分県福祉保健部長 山 田 雅 文

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和4年8月10日付け4文科高第627号、医政発0810第4号に基づき、下記のとおり、令和5年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画及び都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

10名

・大分大学医学部における地域枠：10名

担当 : 医療政策課地域医療推進班 阿南、吉田

電話番号 : 097-506-2658

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門基礎科目	実病院内	病院内実習	2③	1					○	1						兼1		
		小計 (1科目)	—	1	0	0	—			1	0	0	0	0	兼1	—		
	基礎医学	解剖学 (講義)	2①	3			○				1	1	1					オムニバス
		解剖学 (実習)	2①	4						○	1	1	1	2				
		組織学 (講義)	2①	1			○				1	1	1					オムニバス
		組織学 (実習)	2①	1						○	1	1	1					
		生理学 (講義)	2①	4			○				2	1		2				オムニバス
		生理学 (実習)	2①	1						○	2	1		3				
		生化学 (講義)	2①	4			○				1	2		1			兼1	オムニバス
		生化学 (実習)	2①	1						○	1	2		1			兼1	
		病理学 (講義)	2②	4			○				1	1		1			兼1	オムニバス
		病理学 (実習)	2②	2						○	1	1		3			兼1	
		微生物学 (講義)	2②	2			○				1	1					兼1	オムニバス
		微生物学 (実習)	2②	1						○	1	1		2			兼1	
		寄生虫学	2②	2			○				1	1					兼1	オムニバス
		免疫学	2②	1			○				2	1		1			兼2	オムニバス
		寄生虫学・免疫学	2②	1						○	2	1		1			兼2	
		薬理学 (講義)	2③	4			○				2	2		2			兼3	オムニバス
薬理学 (実習)		2③	1						○		1		1					
臨床薬理 I	2③	1			○				2	1					兼1	オムニバス		
	小計 (18科目)	—	38	0	0	—			11	10	1	14	0	兼8	—			
臓器別コース	呼吸器・感染症・乳腺	3①	3			○				2							オムニバス	
	消化器	3①	4			○				2	1						オムニバス	
	循環器	3①	4			○				3							オムニバス	
	腎・泌尿器	3①	3			○				2							オムニバス	
	内分泌・代謝・膠原病	3①	5			○				1	1		1				オムニバス	
	腫瘍・血液	3①	3			○				1						兼1	オムニバス	
	総合診療科・総合外科	3②	2			○				2							オムニバス	
	運動器	3②	3			○					1		4			兼1	オムニバス	
	皮膚	3②	1			○				1		1					オムニバス	
	神経・筋	3②	4			○				2							オムニバス	
	行動・精神・心理	3②	3			○				1								
	ライフサイクル医学 (小児科)	3②	3			○				2	1						オムニバス	
	ライフサイクル医学 (産婦人科)	3②	3			○					2						オムニバス	
	特殊感覚器・頭頸部	3②	4			○				3							オムニバス	
周術期・救急医学	3③	3			○				2							オムニバス		
放射線医学	3③	1			○				1			1				オムニバス		
社会医学	3③	7			○				2			6			兼1	オムニバス		
	小計 (17科目)	—	56	0	0	—			26	6	1	12	0	兼3	—			
配属研究室	研究室配属 (講義)	4前	2			○				1								
	研究室配属 (実習)	4前	3						○	38						兼3		
	小計 (2科目)	—	5	0	0	—			38	0	0	0	0	兼3	—			
臨床実習前導入教育	社会医療	4前	1			○				1								
	症候学	4前	1			○										兼1		
	プライマリーメディカルケア	4前	1			○				1								
	CPC	4前	1			○				1								
	東洋医学	4前	1			○										兼1		
	臨床薬理 II	4前	1			○				1								
	メディカルインタビュー	4前	2						○	2								
	身体診察	4前	2						○	5	4	2	1					
	小計 (8科目)	—	10	0	0	—			9	4	2	1	0	兼1	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 (臨床)	臨床実習入門総合医学	4後	2			○										兼1
	消化器(臨床)	4後～6後	4					○	2	1			3			兼10
	循環器(臨床)	4後～6後	4					○	2	2			4			兼9
	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科(臨床)	4後～6後	2					○	1	1			2			兼3
	神経(臨床)	4後～6後	4					○	2	1			5			兼10
	呼吸器・感染症・乳腺(臨床)	4後～6後	4					○	3	2	1		4			兼7
	腫瘍・血液内科(臨床)	4後～6後	2					○	2							兼5
	総合診療科・総合外科(臨床)	4後～6後	2					○	2	2			1			
	精神科(臨床)	4後～6後	2					○	1				1			兼5
	運動器(臨床)	4後～6後	2					○		1			2			兼8
	皮膚科・形成外科(臨床)	4後～6後	2					○	1		1		3			兼4
	泌尿器科(臨床)	4後～6後	2					○	2	1			5			兼6
	産科婦人科(臨床)	4後～6後	2					○	1	2			2			兼5
	小児思春期発達(臨床)	4後～6後	2					○	1	1			6			兼6
	耳鼻咽喉科(臨床)	4後～6後	2					○	1	1			2			兼6
	眼科(臨床)	4後～6後	2					○	1	1			4			兼6
	放射線科(臨床)	4後～6後	2					○	1				3			兼6
	麻酔・救急(臨床)	4後～6後	4					○	2	1			3			兼5
	臨床薬理(臨床)	5～6	1					○	2	2	1		4			兼1
	歯科口腔外科(臨床)	5～6	1					○	1				2			兼4
	臨床社会医学実習Ⅰ	4後～5後	4					○	1							
	臨床社会医学実習Ⅱ	5～6	4					○	1							
	関連教育病院実習	5～6	2					○	1							
	上級能力実技	6通	1					○	1							
小計(24科目)		—	59	0	0	—		28	19	3	56	0	兼107	—		
合計(113科目)			—	198	14	0	—	44	30	6	78	0	兼116	—		
学位又は称号		学士(医学)		学位又は学科の分野			医学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
1. 教養教育科目 27単位							1学年の学期区分		2期及び3学期							
1) 導入教育科目 必修科目 19単位							1学期の授業期間		15週							
2) 導入教育科目、身体・スポーツ科学科目 選択必修科目4単位							1時限の授業時間		60分及び90分							
3) 外国語科目 4単位																
2. 専門基礎科目 118単位																
1) 医学準備教育科目 必修科目 6単位, 選択必修科目2単位																
2) 「病院内実習」 1単位																
3) 基礎医学 必修科目 38単位																
4) 臓器別コース 必修科目 56単位																
5) 「研究室配属(講義)」「研究室配属(実習)」 5単位																
6) 臨床実習前導入教育 必修科目 10単位																
3. 専門教育科目(臨床) 59単位																
臨床実地修練 必修科目 59単位																
◆卒業の要件 204単位																